



Title	芸術と狂気
Author(s)	横道, 仁志
Citation	a+a 美学研究. 2017, 10, p. 68-69
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/90159
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

芸術と狂気

周知のとおり、プラトンは芸術の本質を「狂気」と定義しました。狂気。それは大衆の集団暴力の原理です。大衆は気持ちよいか気持ちよくないかでものごとを判断して、少数者を虐げながら、自分たち多数派を賛美する。芸術はこの大衆の狂気を助長するので、正しいか正しくないかでものごとを判断する平和国家からは追放されるべきだと、彼は訴えました。これに対してアリストテレスは芸術作品の真理性を擁護したことが知られています。でもどちらが芸術の脅威についてよりよく理解していたのでしょうか。悲劇の登場人物に同情して、涙する。この観客は心優しいひとでしょうか。たぶん、違います。芸術は模倣に過ぎないなら、芸術作品の悲嘆もまた悲嘆のふりに過ぎないからです。そこにあるのは共苦ではなく、自己陶醉ではないのでしょうか。プラトンの芸術観はいまいちど真剣に見直されてよいと思います。

横道仁志（よこみち・ひとし）

一九八二年生まれ。大阪大学大学院文学研究科教務補佐員。専門は中世キリスト教思想、美学、芸術学。

